

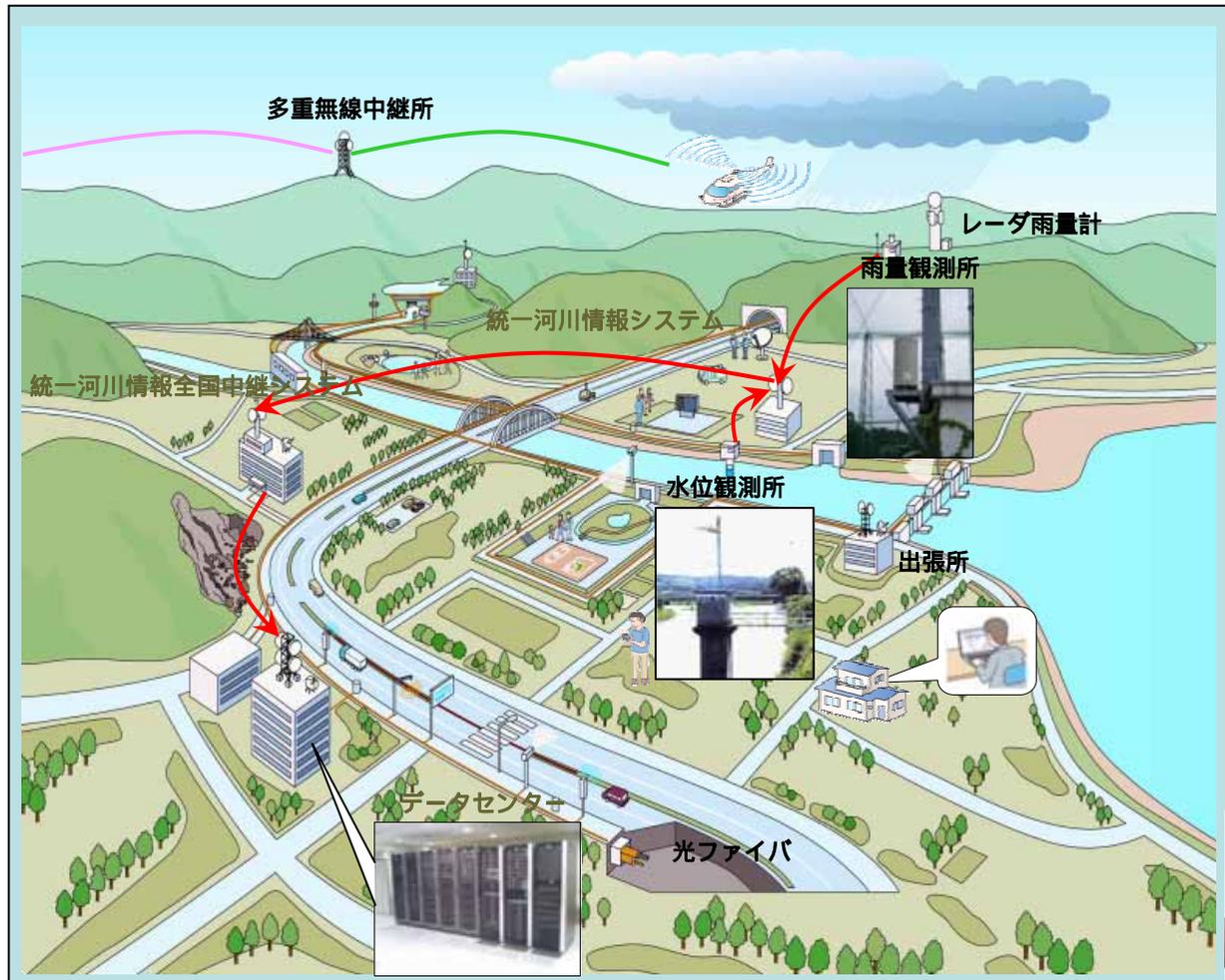
洪水予測・情報提供システムの状況

国土交通省 河川局

平成20年9月

現在の観測体制 ～ テレメータによる水位・雨量観測 ～

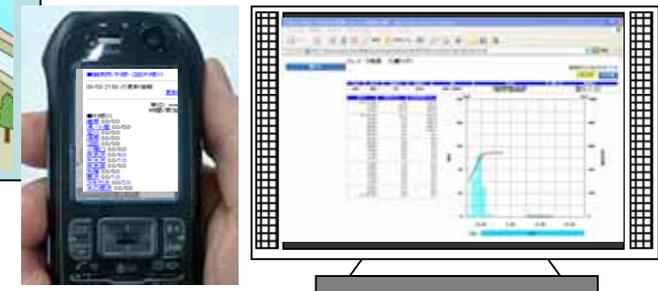
全国14,397箇所の水位・雨量データをテレメータで収集し、情報提供



情報提供観測所数

所轄	雨量	水位
河川局	2,230	1,901
都道府県	3,983	3,571
道路局	989	0
気象庁	1,362	0
海上保安庁	0	0
国土地理院	0	0
水資源機構	108	80
他機関	149	24
合計	8,821	5,576

観測から情報提供
までに要する時間
約10分

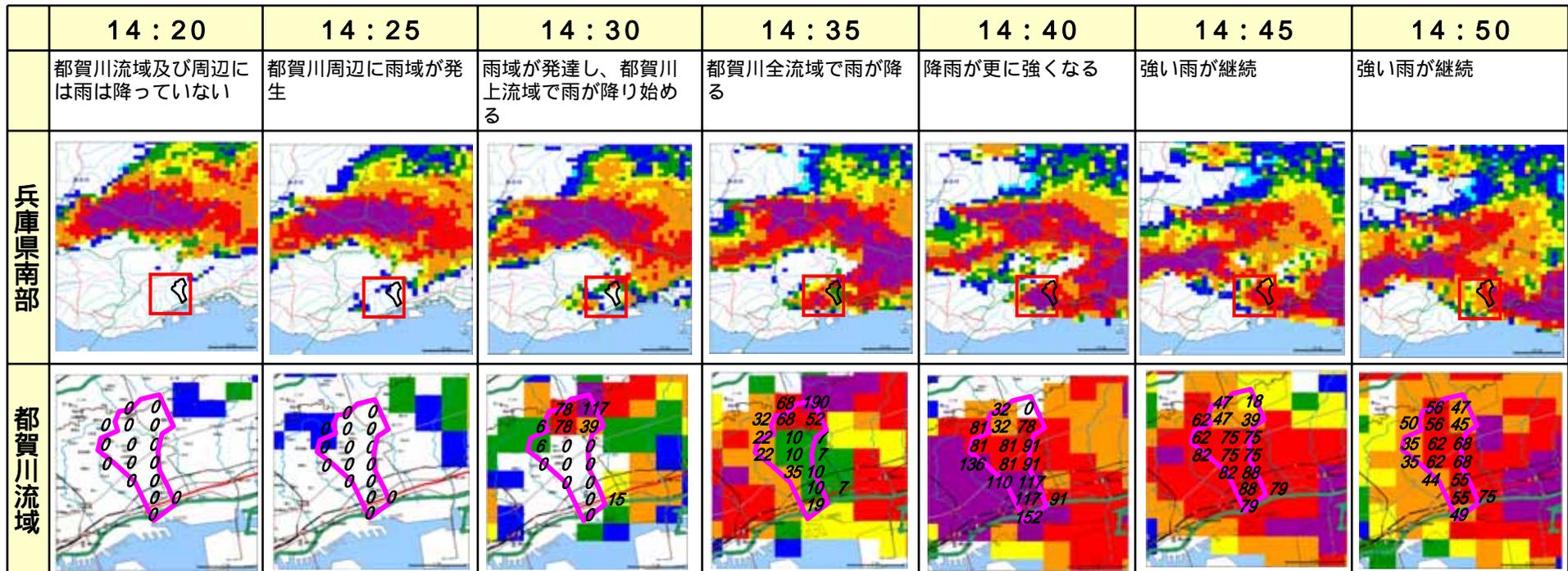


携帯電話やパソコンによる情報提供

Cバンドレーダによる観測結果(平成20年7月28日 都賀川)

概況 近畿地方は、日本の南海上に中心を持つ太平洋高気圧に覆われ、日本海南部にある前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込みやすい状態となっていた。また、上空には寒気が入っていたため、兵庫県でも大気の状態が非常に不安定になっていた。このため兵庫県南部では雷を伴った大雨となり、都賀川周辺流域でも急激に雨域が発達した。(出典：神戸海洋気象台7月30日付気象速報に加筆)

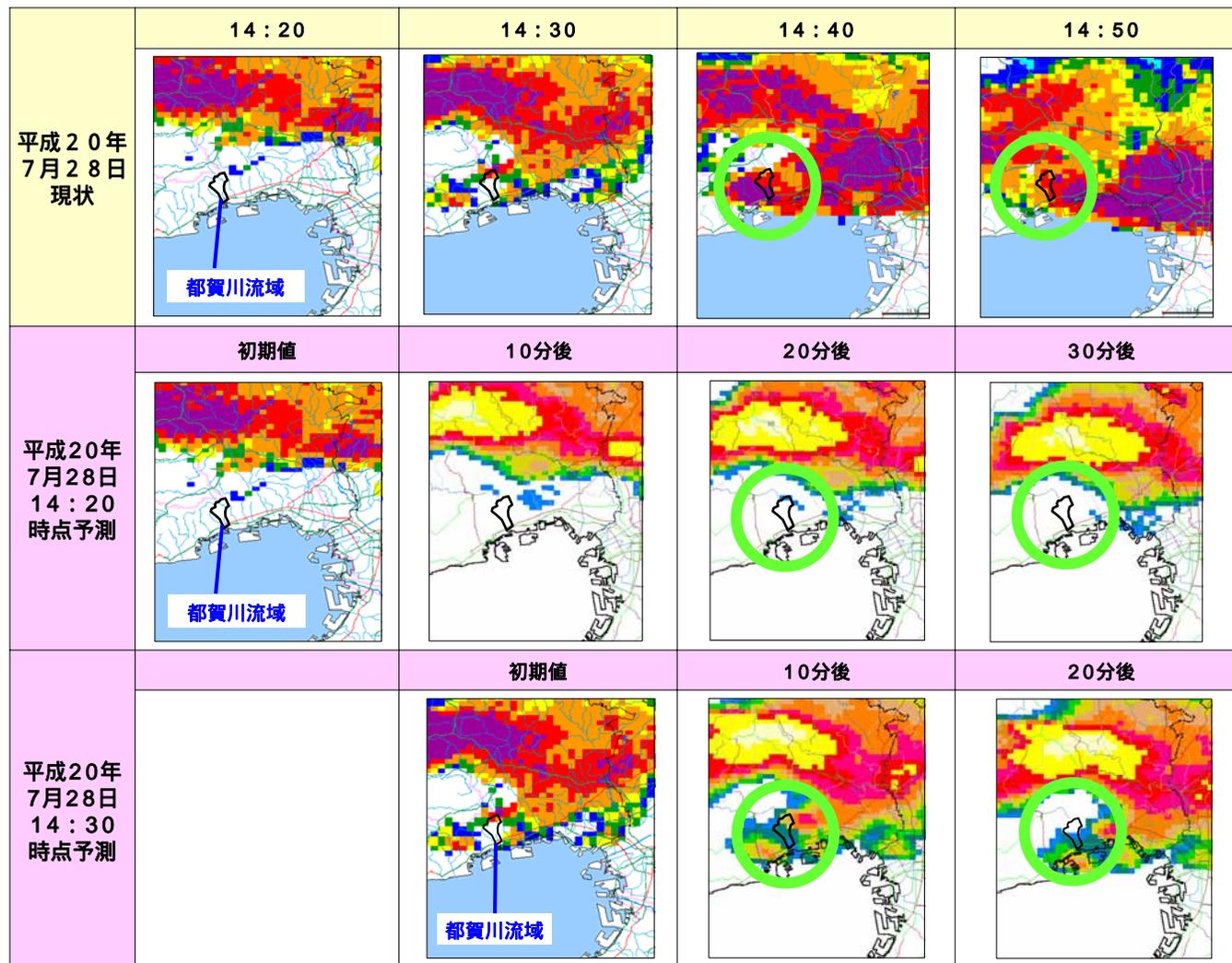
100mm/h ~ ~ 100mm/h ~ 50mm/h ~ 20mm/h ~ 10mm/h
 ~ 5mm/h ~ 1mm/h 0mm/h 欠測 数値 = 雨量 (mm/h)



インターネット(川の防災情報(パソコン・携帯))で提供される時間



洪水予測技術の現状(移動解析)



計算間隔：10分毎
 予測時間：3時間先
 予測手法：
 レーダ雨量計で測定した雨域の移動状況から、直近の移動ベクトルを算出。
 現時刻の観測された降雨を、
 で算出した移動ベクトルで移動させ、将来の降雨を予測。

